本の要約：Obvious Adamsから学ぶ「当たり前の事を、当たり前にやる事の大切さ」

この本は広告業界で成功していく、一人の凡人（普通の人）の日々を描いた一冊であり、全５６ページで１ページあたりの文字数も少なく、本を読むのが嫌いで、特に物語仕立ての本を読むのを苦痛と感じる私でさえ、１時間程度でスラスラと読める内容となっています。

１００年前に発行されたこの本は、一世紀と言う時を経ても尚、読まれて続けている本ですので、そんじょそこらのミーハー本とは違って、これからも変わらない（不朽）であろう使える知識を手にする事が出来るのではないでしょうか？

今回の動画では、この本の中から、幾つか皆様の役に立つであろうチョップス（知識）をご紹介したいと思います。

**１．当たり前の事をやろう！**

物語の終盤で、広告マンとして成功した主人公であるアダム氏は彼の「成功の秘訣」を語る一幕がございます。

「クライアント（お客さん）の課題を解決するために行うべき当たり前の事と言うのは、

１．様々な情報を集める事

２．集めた情報について深く考え、深く分析する事

多くの人は物事を深く考えない。何故なら、深く物事を考える事は頭を使うし、疲れるし、難しい。僕のような凡人よりも遥かに頭が良い広告マン達は常に近道を探して、当たり前の事をやっていないんだ」

当たり前の事とは、多くの場合、状況によって変わってくるでしょう。

簡単な事をする事が当たり前の事と言う時もあれば、面倒な事や辛い事をするのが当たり前の事と言う場合もあるでしょう。

大事なのは、当たり前の事を当たり前のようにやる事で、それこそが本当の近道なのかもしれません。